

産業建設文教委員会

委員長 綾香 良浩

副委員長 大村 謙吾

委員 池田 稔巳 井元 宏三 神田 全記

辻 賢治 針尾 直美 松尾 実

松口 茂生



3月定例会



委員長報告全文は
こちらをご覧ください。

産業建設文教 委員会 レポート

令和7年度予算 アルベルゴ・ディフーズタウン 平戸IC開通イベントなどを議論

有害鳥獣被害防止対策事業

Q イノシシ捕獲後の実績報告にスマホアプリを導入し、地図上に可視化した情報を猟友会員と共有しながら捕獲に活用することだが、スマホに慣れていない年配の猟友会員への対応はどうするのか。

A 即座に切り替えるのではなく、紙ベースとスマホアプリ両方の報告に対応する移行期間を設け、徐々にスマホアプリへと誘導していく。

畜産クラスター構築事業

Q 生月町で肥育牛を飼育している市外の事業者が、牛舎を増設するということだが、何頭増やすのか。また、新たに雇用も生まれるのか。

A 既存施設には肥育牛が174頭おり、従業員も2人雇用されている。増設後は、新たに100頭ほど増やす予定で、従業員も1人増やすと事業者から聞いている。

Q 本市畜産業活性化のため、この事業者にはできるだけ平戸口中央家畜市場で子牛を購入してほしい。

A 積極的に平戸口中央家畜市場から

買うようにしていると聞いている。今後も事業者と連携して本市畜産業の活性化に繋げたい。



平戸口中央家畜市場

漁業後継者経営支援事業

Q この事業の中にある「若手漁業者が取り組む研修会等の支援」について、今回新たに予算措置をした背景を教えてください。

A 令和6年度までは「漁船用機器、漁労用機器または鮮度管理機器等の整備」のみの補助メニューだったが、鮮度管理機器などの整備実績がなかった。そのため、鮮度管理機器を活用している先進地で学び、既存の補助メニューを活用してもらうよう、新たにメニューを追加した。

Q 45歳未満の漁業協同組合の正組合員が補助対象とのことだが、将来的に安定した漁獲量を維持するために対象年齢を上げる必要があると思う

施設予約システム等導入事業

Q 社会体育施設の予約システムと一部スマートロックを導入して、簡単に予約でき鍵の貸し借りも不要になることで、利用者の利便性が向上するということだが、使用料の電子決済は導入されていない。電子決済が利用できればさらに利便性が向上するので、今後検討してほしい。

A 施設を利用しなかった場合の還付方法など課題が残っているため、今回は電子決済を導入していないが、今後は他市の状況などを参考に導入に向け検討していく。

令和7年度平戸市あづち大島いさりびの里事業特別会計予算

Q 指定管理料は、令和6年度同様1,000万円計上されているが、令和6年度は施設改修工事で想定以上の休館を余儀なくされた。指定管理者側に過失があったわけではないため補てんが必要では。

A 令和6年12月末日時点での営業収益は前年度同時期比約236万円減少している。減収相当分の補てんは、今後財政課と協議したい。

が、どのように考えるのか。

A 後継者対策は喫緊の課題ではあるが、対象年齢の引き上げは今後検討していく必要がある。

サーキュラーエコノミー型 ビジネス創出事業

意見 本事業は、あくまでも市内企業と市外企業とが連携した循環型経済の新たなビジネスモデルを創出する事業との説明があった。しかし、現在取り組みが進んでいる事業モデルを例として食品残渣から液肥を作る事業だと誤解を招いている部分があるため、本来の目的をしっかりと整理し事業説明するよう指摘した。

アルベルゴ・ディフーズタウン 推進事業

Q アルベルゴ・ディフーズ開設に向け補助を活用して改修・整備した施設への効果は当然ながら、その周辺への経済波及効果が重要だが、どのように考えているか。

A アルベルゴ・ディフーズタウンは、5年後の観光消費額を5%増加させ

権利の放棄

Q 館浦漁港ビルの一部を館浦出張所として使用するため、旧生月町が昭和29年10月に館浦漁業協同組合へ出資し取得した永代使用权を、令和7年度の館浦漁港ビル解体に際し放棄することだが、もっと早く権利を放棄すべきだった。これまでも放棄するタイミングはあったと思うが、なぜ今なのか。

A 本来、昭和50年に生月町役場館浦出張所が生月船員福祉会館に移った際、または平成17年の市町村合併の際に放棄すべきだったが、放棄されずに現在に至った。

Q 今後はこのようなことがないようにしっかりとチェックすべき。

A 毎年決算時期に出資金の状況を確認するようになっていたので、その際に確認を徹底する。



あづち大島いさりびの里